



今年は酉年です



小山市の小学校の鶏

鳥インフルエンザ対策を実施してください

今年には人のインフルエンザも早い時期に流行しました。昨年11月には、鳥インフルエンザが確認され、その後、各地で相次いで高病原性鳥インフルエンザが確認されました。栃木県でも、過去の発生状況と同様に、野生の猛禽類（オオタカ）で高病原性鳥インフルエンザが確認されました。一般的には、渡りをする水鳥が感染源とされていますが、栃木県では水鳥を捕食する猛禽類で発生する傾向があるようです。水鳥とは関係がないと安心することなく、山間地域でもしっかりと野鳥対策を実施されますことをお願いいたします。

飼育担当教諭への講習会風景（高根沢地区）



: 飼育担当者の苦悩

◇ 飼育担当者の重い思い

「動物に触ったことないし、第一、動物苦手だし・・・」とか、「万が一、担当している間に死んじゃったらどうしよう」、「子供に何か聞かれても、動物のこと知らないし・・・」、「休みの時にも世話しなきゃならないし、他の先生に迷惑かける」などと感じることも多いことでしょう。毎年、各地域で開催される「飼育担当者研修会」に参加される先生方から、そのような率直なお気持ちをお伺いしております。

◇ 誰が「飼育担当」をするのか？

小学校で動物を飼育している場合、「飼育委員会」や「飼育栽培委員会」が組織され、委員会の担当教諭が飼育活動を主体的に担っていることが多いように見受けられます。当然、実際に動物の世話をしている子供さんは、飼育委員会の子供さんであることが多く見受けられますので、当然の形なのでしょう。

しかしながら、広く他の小学校のやり方を見渡してみると、「登校班の当番制」や「一・二年生の当番制」、「縦割り班の当番制」であったりするケースも少なくありません。この場合、実際に動物の世話に立ち会う教諭は、飼育担当の教諭でないことも良く見受けられ、クラス担任であったり、教頭先生や校長先生であったり、様々なケースがあります。

◇ 「飼育担当者」の役割は何？

日常的に飼育舎の清掃活動の立ち会いや付添が可能であるならばそれに越したことはありません。しかし、飼育担当者の役割で最も重要な役割は、「子供さんの活動の中で起こった問題を解決すること」にあると感じます。「[解決する方法を知っていること](#)」（獣医師会ホームページには、Ward版もあります。）が飼育担当者として必要なことと感じます。

獣医師とのつながりは、その大きな手助けになると思います。困った時には遠慮なくご連絡ください。いつでもお手伝いさせていただきます。



根拠に基づく学校動物飼育

学校動物飼育の始め方：始める前に知っておくべきこと

➤ 知っておくべきこと：毎日のお世話

毎日のお世話は、清掃と餌・水やりがあります。

清掃は、床の尿を洗い流したり、糞を片付ける作業です。床がコンクリートの場合にはそれ程大変な作業ではありませんが、土間床の場合は意外と大変です。土間床も平らな状態ならば帚（ほうき）で掃き集めることはそれほど大変ではありませんが、デコボコしていたり、地下にトンネルが掘られていたりすると大変煩わしい作業になります。可能な限り平らな状態を維持すると作業がしやすくなることでしょう。



敷き藁は食料にもなります

➤ 知っておくべきこと：飼育日誌

飼育日誌は、必ず用意し、毎日の記録を継続してください。

飼育日誌をつけることで観察力、洞察力が養われます。簡単な絵を描かせると更に観察力を育てることになるでしょう。当然、「病気や体調の変化がいつから起こっていたか」やその変化の情報を次の人に伝えることもできますし、情報の共有の意味合いからも重要な役割をします。

あらかじめチェックする項目を示した**チェックシート**（獣医師会ホームページには ward 版もあります）を用意しておくことも良いことでしょう。

飼育担当の先生にとっても、飼育日誌に目を通すことで子供さんと情報を共有できますし、日誌にコメントを書くことで子供さんとのつながりを強くすることにも役立ちます。忙しくて飼育舎での活動に付き添うことができなくても、日誌を通して活動がどのように行われているかを知ることにも役立ちます。



子供さんは良く変化に気づいてくれます

2015.11.16

このケースは、奥歯が伸びすぎて頬に刺さっていました

餌と水やりは、毎日欠かすことができない作業ですが、ラビットフードを主食にしていると、ラビットフードはあっという間に食べきってしまい、お皿が空っぽの状態が長時間続きます。ラビットフードは、牧草（チモシーやアルファルファ）を粉末にしてペレット状に押し固めたもので、栄養的には牧草を食べていることと同じです。ただし、一気に食べてしまうことで食べ過ぎて肥満傾向になること、前歯を使わないで食べるので、歯の問題を起すことがよくあります。

ウサギは草食動物であることから、牧草や藁（わら）を主食とし与える必要があります。本来の主食である牧草や藁は、前歯から奥歯まで使って時間をかけて食べるので、歯の健康維持と肥満防止に役立ちます。さらに、多めに入れておくことでラビットフードがなくなった時の食べ物役割を果たします。冬には寒さよけにもなりますし、尿で床が汚れるのを防いでくれます。

水は大きめの入れ物（器）を用意してください。暑い夏は水がないと熱中症になります。充分過ぎるほどの水を毎日入れ替えてあげてください。



土間床でデコボコしていると作業がしにくいです 13



熱心に飼育日誌に記録する飼育委員

➤ 知っておくべきこと：事故や病気・死亡

動物を飼育していると、必ず事故や病気、最終的には死亡する出来事に遭遇します。その際に大切なことは、「子供さんが主役であること」を忘れないで対応をすることです。費用のこと、手間のことなど、大人の事情で、事故・病気等に対処しなかったり、見て見ぬふりをしたりすると、子供さんは大人の事情を理解して、同じように対応するようになってしまいます。出来る限り、その時々の子供さんの心に寄り添い、適切な対処を心掛けてください。

➤ 知っておくべきこと：繁殖

誕生を経験することは、死を経験することと同じくらい有意義なことです。そういった意味では計画的な繁殖はあってよいと考えますが、繁殖をコントロールできないことが多く、結果的に増えすぎて困ったことになってしまいます。最初から、不妊の処置を施した動物を導入するようにするとよいでしょう。計画的に繁殖させる場合でも、生れたばかりのウサギは弱く、死亡することが多いです。不用意に立て続けに赤ちゃんウサギが亡くなることは、子供さんの心に大きな影を落とすことにもなります。慎重に、丁寧に繁殖させる必要があります。